

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒 元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

古賀志山－宇都宮市民の裏山－

古賀志山(鹿沼北郊から)



12月上旬、宇都宮市西郊の古賀志山(583m)に出かけた。低山ながら、鉄バシゴやクサリ場等、なかなか変化に富んだ岩山である。東北道を鹿沼ICで下りると鹿沼市街地のすぐ裏手に見える、ゴジラの背のような岩ゴツゴツの山が古賀志山である。市民に愛される里山らしく様々なバラエティーコースがあるが、今回は滝コースを登り、御岳と古賀志山本峰の山頂を踏み、北コースを下る計画にした。広々とした森林公園駐車場に車を置き9時出発。管理センター前からトリム遊歩道を登り、古賀志山の南麓を巡る林道を滝コース登山口までブラブラ歩く。登山口から沢沿いのジメジメした道を登り、10時半不動滝に着いた。滝下の祠を取り巻きオーバーハング気味の岸壁が屏風のように立ち並ぶ。人気のロッククライミングゲレンデの一つと聞くが、今日は人影一つなかった。

岩壁の下を右に回り込んで、岩クズ混じりのジグザグ道を急登して11時15分、古賀志山と御岳の中間のコルに這い上がった。そこから稜線伝いに左に進み、鎖場と鉄バシゴを伝って岩場を乗り越し、御岳頂上に着いたのが11時20分。明るい山頂広場は眺望が素晴らしい。日

御岳から望む古賀志山本峰



光連山や宇都宮の町並みを眺めながら弁当を広げた。12時出発で往路を先程のコルまで下り、そのまま岩稜を東にたどり、12時20分古賀志山本峰山頂。山頂広場は樹林に囲まれ展

望なし。しかし、さすがは人気の山、行き交う人が多い。ほとんどが地元の人達であろう、運動靴、ジャージに水筒だけの軽装である。登山靴に山装備の我々の方がいささか気恥ずかしい思いだった。古賀志山山頂から富士見峠へは、かなり急な勾配を落ち葉を蹴散らしながら下る。富士見峠で進路を右に取り、



赤川湖畔の紅葉



北コースを赤川ダムに向け下る。13時半細野ダム下。後は、周囲の山々の黄金色に染めるカラマツ林や目の覚めるような紅葉を愛でながら赤川湖畔を散歩し、駐車場に帰り着いたのが14時。

帰路、殊勝に家への土産に、宇都宮名物のギョウザをしこたま買いこんだ。

御岳から眺める日光連山

